

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓
研究代表者	河合 香吏 (東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、人間社会の多様性ではなく、「社会性」という人類共通の特徴を、人類学と霊長類学との連携で探る挑戦的なテーマであり、応募者が過去13年間に主催した多数の研究会やシンポジウムにおける学際的対話を基礎とする研究である。</p> <p>長期フィールドワークの経験と知見を密に擦り合わせながら、被調査者や被験者の権利の擁護にも注意を払いつつ、調査手法の相互活用や領域横断的連携のあり方を模索する計画を高く評価する。特に、個体追跡法を出発点に新たな方法論が確立できれば、フィールドサイエンスの諸分野にとって意義深い。さらに、隣接諸科学との対話を通して、集団行動と「社会性」の関係について新たな所見が得られると期待できる。</p>